
氷の瞳-S i d e s t o r y-

愛水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷の瞳 - S i d e s t o r y -

【Nコード】

N 2 9 4 8 L

【作者名】

愛水

【あらすじ】

これは、私のブログ・・・<http://ameblo.jp/sitakiri-1997/>

で書かれていた、「氷の瞳」のSide storyです。

まずは、ブログの方からよんでいただけると幸いです。

ブログテーマ「小説」からお探し下さい。この話は、香乃が

その後どうなったのかを書いた小説です。

(前書き)

あくまで、サイドストーリーです。

これを読み始める前に、ブログの方から読んでください。

あの日………俺はなんであんなことを告げたのかわからない。

ただ……資格がなかっただけだと思う。あの日、樹也と話した事を思っ……

自分の背負った重荷を感じ、自ら別れを選んだ香乃は、豫深と別れ、今どうしているのか？そんな小説の、開幕です。でも短編

残念なことに同窓会に出席できなかった俺は、今は普通に高校生活を送っていた。今はまだ、誰かと付き合おうなんてそんなことは思っなくて、今は、仕事だけでいいかな、と思っていた。

そんなとき、彼女は現れたんだ。どこか雰囲気は豫深に似ていて、されど氷の瞳ではない。でも、つめたそう………彼女の名前は、堀井 蘭。実際に接してみると、外見とは違い明るくて、まるであの時の豫深とは正反対だな……そう思う香乃。あの別れ以来、自分は恋自体を恐れるようになったのか………と思ってしまう。蘭はよくこっちに接してくれて、最近では学校帰りにどこかへ寄ったり、メールもするようになった。そういった態度をとる蘭に、だんだんと香乃は魅かれていく。その一方で、「またあんなこと」にならないかな……と不安もいだいている香乃。それからまた、数か月後……

「す……好きですっ付き合っ………下さいッ！」

嬉しかった。けれど、同時にやはり不安が襲う。あの日の豫深のようにさせてしまったら………そう感じて、まだ受け入れきれない。

香乃の様子がおかしいと思ったのか、蘭は顔を覗き込む。

「どうしたの？大丈夫？」蘭が心配そうに言う。それで少しはつと
して、「あのさ・・・俺、お前から告白されたことは嬉しいよ。
けど・・・」と行って、あの日のこと、氷の瞳のことを話します。
「そうだったんだ・・・でも、私、ずっと・・・一緒にいるから！
もし別れるときは、私の方から告げるから！だから・・・
私じゃダメなの？」ああ、その笑顔を好きになったんだよ・・・
と蘭を引き寄せ、抱きしめる。これからも困難があるかもしれない。
それに、また俺の方が抱え込むことだっと思ってあると思う。けれどそれら
すべてに・・・一人で・・・二人で、永遠に乗り越えて行けたら
いいな、と思う。

豫深・・・・・・・・・・・・・・・・守つてやれなくて、
あの時救えてあげなくて、

ごめんな。

(後書き)

どーもっ！はじめましてっ！愛水ですっ！

ご覧になってくれたみなさん、本当に本当にありがとうございますっ！

どうでしたか？1000文字も満たない短編ですが、

面白かったでしょうか？というか、これ見る前にブログみてますね
っw

今度書くときは、私が前やっていたブログで書いていた・・・今は
亡き

旧作、「隣のバカ野郎 再復活！」をやりたいと思います。内容も
最初から

リセットしてしっかり練って行きますので、長編になるといいなあ
って思ってます。

感想、ぜひぜひお寄せください！ブログの方でも結構です

あと、私はこのサイトに沖田雅さんと時雨沢恵一さんにあこがれて
入りました！

自信のあるのができたら、応募しようかと思ってます。ちなみに、

沖田さんは

有名作といえは7月アニメ化の「オオカミさんシリーズ」。時雨沢
さんは

アニメ化された「アリソン」や、こっちはアニメ化されていませんが
「キノの旅」が有名ですかね。基本電撃大好きです。ラヴです。

こんな私ですが、これからよろしく願います！長編のあとがき
失礼します！みなさんあとがき短くしたり書いてなかったりするの
で・・・

では また次作

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2948/>

氷の瞳-S i d e s t o r y -

2010年10月28日03時34分発行